

一次処理対応移動式解体処理車
新型ジビエカー

now under developing



より近く、より早く。移動して解体する、新時代のジビエ用解体処理車、リブート。

現場で高まる広域でのジビエ利用のニーズや、より迅速な処理の必要性に応えるため開発された「ジビエカー」。そのさらなる小型化、低価格化、利便性向上を目指し、新型を開発中です。

Check

1 ジビエカーとは

- ・一次処理（剥皮・内臓摘出）が可能な車
- ・捕獲・止め刺し後の速やかな処理により、抜群の鮮度で肉の付加価値向上が期待できる
- ・遠隔地の個体も受け入れが可能になるため、搬入率向上に寄与
- ・移動一次処理施設としての使用のほか、二次処理施設に隣接して設置することで新しい施設基準をクリアできない施設でも事業の継続が可能に



※撮影のため後方を開放しています。

Check

2 拠点型・回収型で搬入率拡大

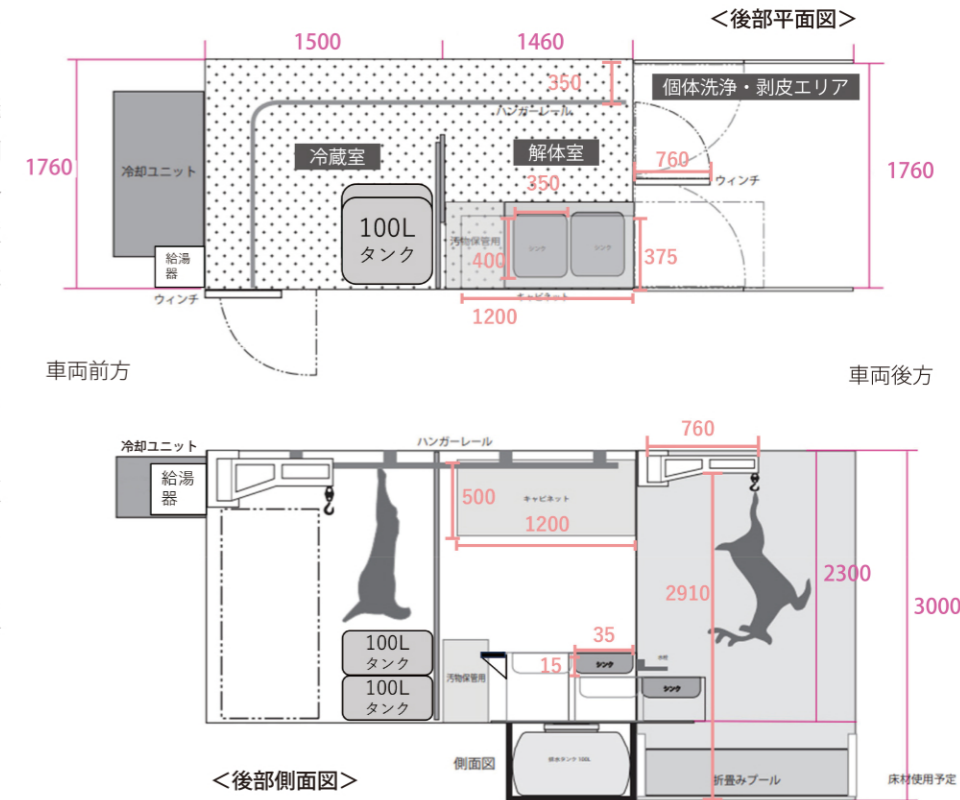
ジビエカーは「移動した先で一次処理ができること」がストロングポイント。この強みを最大限活かすために、現在「拠点型」「回収型」2つの運用モデルが検討されています。拠点型は既存施設から離れたエリアにジビエカーを設置する拠点を設け、捕獲者に拠点まで捕獲個体を搬入してもらうモデル。回収型は複数の捕獲地点を巡り、それぞれの場所で解体処理を行って処理施設へ戻るモデルです。



Check 3

コンパクトボディでも確実な衛生管理

2トンショートコンパクトボディながらも厚生労働省のガイドラインに準じた解体処理が可能な設備・装備を備えています。個体洗浄・剥皮エリアは車体パネルをスライドすることによって、車両後部にスペースを作ります。車内には内臓摘出を行う「解体室」と「冷蔵室」を完備。難点であったシンクや給排水システムも、さまざまな技術・ギミックによってコンパクトに収めています。旧型の最大の課題であった作業スペースの狭さも、必要最低限の装備にすることやシンクの設置方法の工夫などによりクリアしています。

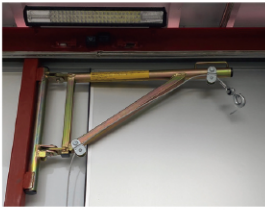


冷蔵室	解体室	個体洗浄・剥皮エリア
[清潔区]	[準汚染区]	[汚染区]
⑯ 冷却・保管	⑫ トリミング	① 個体の受入れ ・猟師からの聞き取り — 専用の着衣を着用 —
— 専用の着衣を着用 —	⑪ 内臓検査	② 個体の懸吊
⑮ 枝肉に ミートラップを巻く	⑩ 内臓摘出	③ 個体の洗浄
⑭ 枝肉洗浄	⑨ ウィンチからハンガー レールへの付け替え — 専用の着衣を着用 —	④ 四肢切断
⑬ 枝肉のリンパ・ 異常の確認	⑧ 頭部切断	⑤ 食道結さつ
	⑦ 剥皮	⑥ 肛門結さつ

ジビエカーの解体フロー図（例）
「個体の受入れ・冷却・保管」

設備・装備

【個体洗浄・剥皮エリア】



剥皮用ウインチ



温水シャワー



手洗い水栓



シンク



排水受け折畳プール

【解体室】



排水ポンプ



懸吊レール



温水シャワー



手洗い水栓

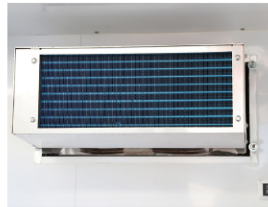


シンク

【冷蔵室】



キャビネット



冷却装置



懸吊レール



個体搬出用ウインチ



枝肉固定用フック

Check

2023 年度実証実験中

- ・2023 年度、山梨県丹波山村および甲州市、熊本県天草市において、新型ジビエカーの実証実験
- ・協力施設は「丹波山村ジビエ肉処理加工施設」、「天草ジビエ倉岳加工所」
- ・2023 年 10 月山梨県にて食肉処理業の許可を取得済み。熊本県では今後営業許可申請予定
- ・結果については 2024 年春にレポートに取りまとめる予定

販売予定価格

【新車】 1400~1500 万円 (税別)

【中古車】 1000~1200 万円 (税別)

Contact

衛生管理・運用についてのお問い合わせ
 一般社団法人日本ジビエ振興協会
 0266-75-1850 / info@gibier.or.jp

ベース車の仕様

車体寸法 (cm)	長545 幅190 高327
原動機型式	N04C
型式	BKG-XZU538M
車体総重量	4,895kg
サイズ	小型
排気量	4,000cc
燃料	軽油
ミッション	MT
上物メーカー	トランテックス
排ガス規制	適合
最大積載量	2,000kg
荷台寸法 (cm)	長360 幅175 門高226

購入についてのお問い合わせ
 株式会社シンクロ・フード (担当: モビマル事業部 太田)
 050-5576-7470 / ohta@synchro-food.co.jp